

県内経済は、生産活動で持ち直しの動きがみられるが、雇用情勢は悪化が続いており、個人消費も一部に明るい動きはみられるものの総じて低調に推移するなど、厳しい状況が続いている。

1. 平成21年8月の県内経済

消費動向をみると、大型小売店販売額（全店舗ベース）は、飲食料品をはじめ衣料品、身の回り品など軒並み低調に推移し、3ヵ月連続で前年を下回った。乗用車新車販売は、補助金や減税の効果から中小型乗用車が前年を上回るなど牽引し、合計では13ヵ月ぶりに前年を上回った。生産活動は、前年水準を下回ってはいるものの、持ち直しの動きがみられる。投資動向をみると、公共工事前払保証取扱は、件数が前年を上回ったが、請負金額は前年を下回った。建築着工（民間・非居住用）は、棟数、床面積、工事費予定額とも前年を下回った。新設住宅着工戸数は、持家および貸家が前年を上回り、分譲住宅が前年を下回ったものの、合計では10ヵ月ぶりに前年を上回った。倒産状況は、負債金額10百万円以上の倒産件数が前年を下回り、負債総額は前年を上回った。雇用情勢は、新規求人倍率、有効求人倍率（原指数）とも、22ヵ月連続で前年を下回るなど厳しい状況が続いている。

〔消費動向・弱い動き〕

大型小売店販売額（全店舗ベース）は、天候不順や所得環境の悪化などから、飲食料品をはじめ衣料品や身の回り品など軒並み低調に推移し、合計では3ヵ月連続で前年を下回った。乗用車新車販売は、大型乗用車、軽乗用車が依然低迷しているものの、中小型乗用車が補助金や減税の効果から前年を上回るなど牽引し、合計では13ヵ月ぶりに前年を上回った。消費者物価指数は、前月比0.3%上昇し、4ヵ月ぶりに前月を上回った。一方前年同月比では2.8%下降し、7ヵ月連続で前年を下回った。個別企業の販売動向をみると、家電量販店は、エコポイント効果から薄型テレビ、冷蔵庫が好調だったものの、パソコン、デジカメ、エアコンが振るわず、合計では前年をやや下回り推移した。ホームセンターは、家庭用品、日用品、園芸植物、木材塗料、ペット関連などが好調、前年を上回り推移した。旅行取扱額は、国内・海外の個人ならびに団体が、雇用・所得環境の悪化や新型インフルエンザの影響、シルバーウィークへのシフト等により低調に推移した。

〔投資動向・減少基調〕

8月の公共工事前払保証取扱は、件数は6ヵ月連続で前年を上回ったが、請負金額は4ヵ月ぶりに前年を下回った。7月の建築着工（民間・非居住用）は、棟数、床面積、工事費予定額ともそれぞれ前年を下回った。8月の新設住宅着工戸数は、持家および貸家が前年を上回り、分譲住宅が前年を下回ったものの、合計では10ヵ月ぶりに前年を上回った。

〔生産活動・持ち直しの動き〕

7月の鉱工業生産指数（季節調整指数）は、生産の持ち直しの動きを受け、82.0（前月比+3.5%）と3ヵ月連続で前月を上回った。一方、原指数では87.0（前年同月比△21.9%）となり、12ヵ月連続で前年を下回った。8月の大口電力販売量は、電気機械で前年の水準に戻りつつあるが、合計では9ヵ月連続で前年比二桁マイナスが続くなど依然低い水準にある。

〔企業倒産・横ばい〕

負債金額10百万円以上の企業倒産状況は、倒産件数が2ヵ月ぶりに前年を下回り、負債総額は3ヵ月ぶりに前年を上回った。また、福島県信用保証協会の代位弁済状況は、件数、金額とも2ヵ月連続で前年を下回った。

〔金融動向・増加〕

8月末の預金残高は前年同月比+2.0%と30ヵ月連続で前年を上回った。貸出金残高も同+1.1%と14ヵ月連続で前年を上回った。

〔雇用動向・悪化〕

新規求人倍率、有効求人倍率（原数値）は、22ヵ月連続で前年を下回った。また、季節調整値でみた新規求人倍率は、0.66倍（前月比△0.04%）となった。有効求人倍率は0.33倍（同△0.01%）で過去最低水準を更新するなど、県内雇用情勢は厳しい状況が続いている。

県内経済動向の概要

	項目	前年同月比			前月比		
		6月	7月	8月	6月	7月	8月
消費動向	大型小売店販売額（全店舗）	↗	↗	↘	↗	↗	↗
	乗用車新車登録台数	↗	↗	↗	↗	↗	↗
	消費者物価指数（総合）	↗	↗	↗	↗	↗	↗
投資動向	公共工事前払保証取扱保証請負金額	↗	↗	↘	↗	↗	↗
	建設着工棟数（民間・非居住用）	↗	↗	—	↗	↗	—
	新設住宅着工戸数	↗	↗	↗	↗	↗	↗
生産活動	鉱工業生産指数（総合）注1	↗	↗	—	↗	↗	—
	大口電力販売量	↗	↗	↗	↗	↗	↗
企業倒産	企業倒産件数注2	↗	↗	↗	↗	↗	↗
	企業倒産金額注2	↗	↗	↗	↗	↗	↗
金融動向	預金	↗	↗	↗	↗	↗	↗
	貸出金	↗	↗	↗	↗	↗	↗
雇用動向	有効求人倍率（パート含む）注3	↗	↗	↗	↗	↗	↗
	新規求人倍率（パート含む）注3	↗	↗	↗	↗	↗	↗

良化 ↗ 良化傾向にあるがほぼ横這い ⇔ 悪化傾向にあるがほぼ横這い ⇔ 悪化 ↘

注1：前月比は季節調整値、前年同月比は原指数。注2：負債総額10百万円以上。注3：前月比は季節調整値。前年同月比は原指数。

2. 県内経済動向

消費動向

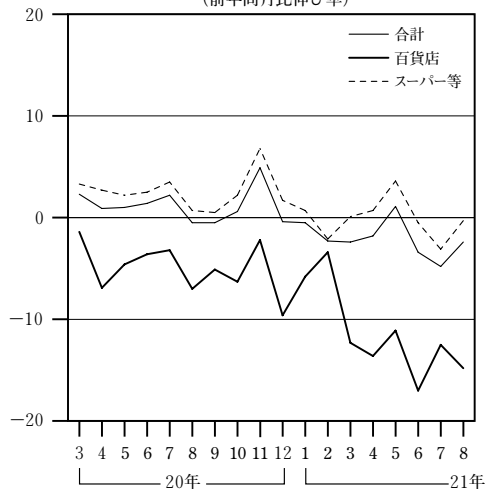
大型小売店 8月の県内大型小売店の販売額は、天候不順や所得環境の悪化などから、飲食料品をはじめ衣料品や身の回り品など軒並み低調に推移し、全店舗ベースで192億円(前年同月比△2.4%)と3ヵ月連続で前年を下回った。一方、既存店ベースでは同5.5%減と9ヵ月連続で前年を下回った。(注：既存店とは調査月において当月と前年同月でもともに存在した事業所の数値。)

業態別に内訳をみると百貨店は、衣料品が主力の婦人服をはじめ全般的に振るわなかったほか、身の回り品、飲食料品も前年を大きく割り込み、全店舗ベースで23億93百万円(同△14.8%)と、既存店ベース(同△10.5%)とともに24ヵ月連続で前年を下回った。

スーパーは、主力の飲食料品がお盆商戦で堅調に推移し、前年を上回ったものの、衣料品や身の回り品が振るわず、全店舗ベースで168億7百万円(同△0.3%)と3ヵ月連続で前年を下回った。また、既存店ベースでも同4.7%減と、3ヵ月連続で前年を下回った。

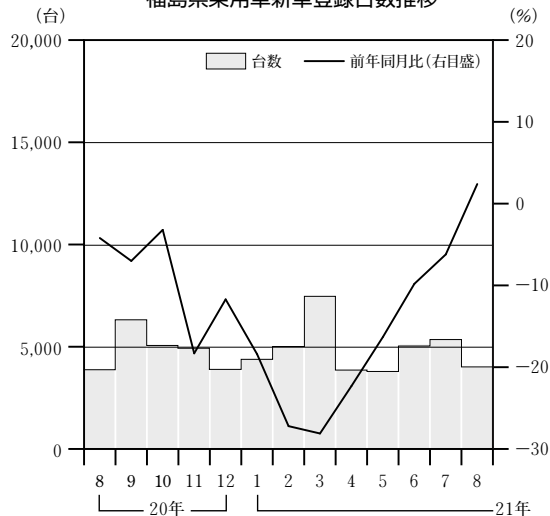
乗用車販売 8月の乗用車新車登録台数(軽乗用車含)は、合計で4,067台(前年同月比+2.4%)となり、減税や補助金効果により13ヵ月ぶりに前年を上回った。車種別でみると、大型乗用車は

福島県大型小売店販売額（全店舗）
(前年同月比伸び率)



(資料：経済産業省)

福島県乗用車新車登録台数推移



(資料：福島県自動車販売店協会)

365台(同△19.6%)と13ヵ月連続で前年を下回った。中小型乗用車は2,273台(同+14.1%)と13ヵ月ぶりに前年を上回った。軽乗用車は1,429台(同△6.4%)と9ヵ月連続で前年を下回った。特に、中小型車の一部(1501~2000cc)で、5月以降4ヵ月連続で前年を上回るなど好調に推移している。

8月の乗用車中古車販売台数(軽自動車は名義変更を含む)は、合計で7,092台(前年同月比△11.3%)と11ヵ月連続で前年を下回った。車種別にみると大型乗用車は2,022台(同△13.4%)と、7ヵ月連続で前年を下回った。また、中小型乗用車は2,723台(同△12.6%)、軽乗用車は2,347台(同△7.7%)で、いずれも11ヵ月連続で前年を下回った。

消費者物価指数 8月の消費者物価指数は、総合指数(福島市、平成17年=100)でみると、100.7(前月比+0.3%)となり、4ヵ月ぶりに前月を上回った。前年同月比では2.8%下がり、7ヵ月連続で下降した。

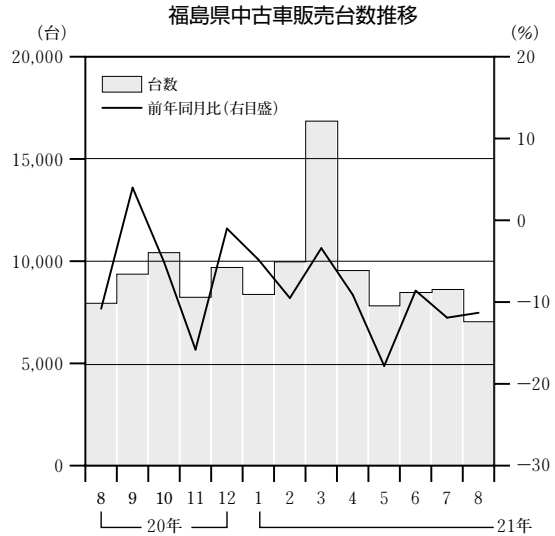
費目別の指数動向をみると、「食料」が105.8(前月比+1.8%)、「教養娯楽」が96.9(同+0.9%)、「住居」が99.3(同+0.1%)と3費目で前月比上昇した。一方、「被服及び履物」が94.1(同△2.5%)、「交通・通信」が98.3(同△0.8%)、「家具・家事用品」が91.5(同△0.4%)、「光熱・水道」が104.3(同△0.3%)、「保健医療」が98.1(同△0.1%)など6費目で前月比下降した。また、「教育」は103.7で前月と同じであった。

家電量販店 8月の売上状況は、エコポイント効果から薄型テレビ、冷蔵庫が伸びたほか、携帯電話、洗濯機なども堅調に推移したものの、パソコン、デジカメ、エアコンなどは振るわず、合計では前年をやや下回り推移した。

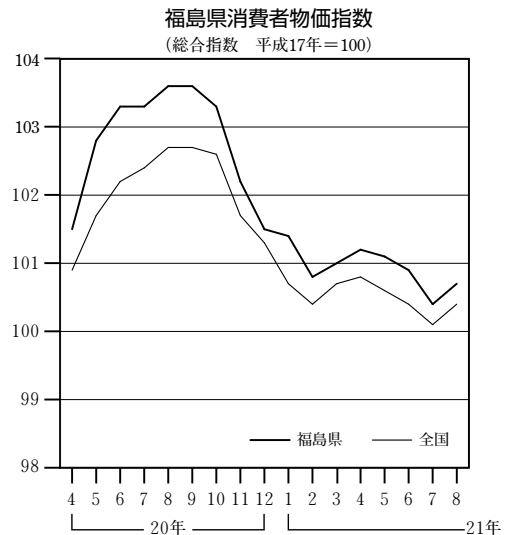
ホームセンター 8月の売上は、家庭用品、インテリア用品、園芸植物、木材塗料、ペット関連などが好調に推移し、全体では前年を上回る水準で推移した。

旅行 8月の旅行取扱額実績は、雇用・所得環境の悪化や新型インフルエンザの影響、シルバーウィークへのシフト等により、国内・海外の個人並びに団体は、それぞれ低調に推移した。

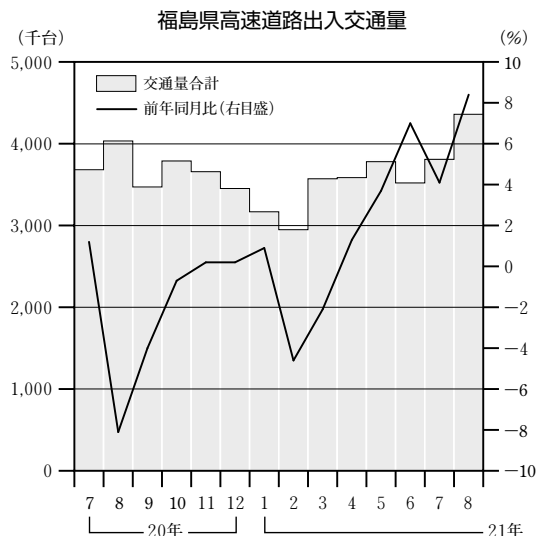
高速道路 8月の県内自動車道出入台数は、「ETC割引制度」の効果などを背景として、4,385,086台(前年同月比+8.4%)と5ヵ月連続で前年を



(注) 軽自動車は名義変更台数含む
資料: (社)日本自動車販売協会連合会 福島支部
(社)全国軽自動車販売協会連合会



(資料: 総務省統計局)



(資料: 東日本高速道路(株)東北支社)

上回った。路線別にみると、東北自動車道（白河IC～国見IC）は2,397,263台（同+5.0%）と3ヵ月連続で増加、磐越自動車道（いわき三和IC～郡山東IC）は316,641台（同+5.1%）と5ヵ月連続で前年を上回った。磐越自動車道（磐梯熱海IC～西会津IC）は708,406台（同+17.5%）と2ヵ月ぶりに前年を上回った。常磐自動車道（いわき勿来IC～常磐富岡IC）は962,776台（同+12.1%）と5ヵ月連続で前年を上回った。

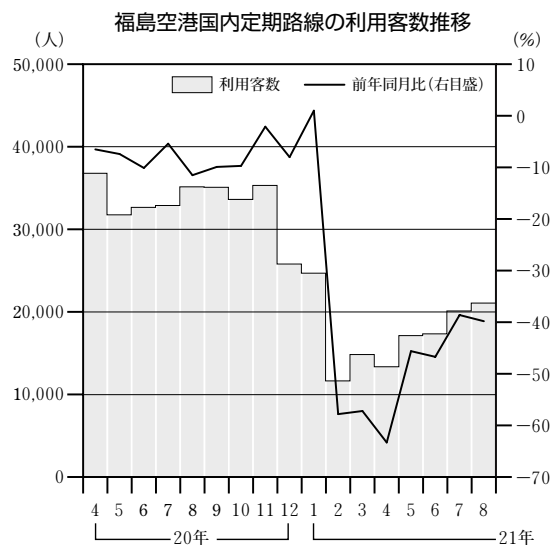
福島空港 8月の福島空港国内定期路線の利用状況は、平成21年1月の日本航空の撤退に伴う大阪（関空発着）・沖縄両路線の廃便により、21,311人（前年同月比△39.8%）と前年を大きく下回った。路線別にみると、札幌便は11,766人（同△9.2%）と10ヵ月連続、大阪便は9,545人（同△38.3%）と20ヵ月連続でそれぞれ前年を下回った。一方、国際定期路線の利用状況は、4,900人（同△38.0%）と10ヵ月連続で前年を下回った。路線別にみるとソウル便は3,731人、上海便は1,169人となっている。

—— 投資動向 ——

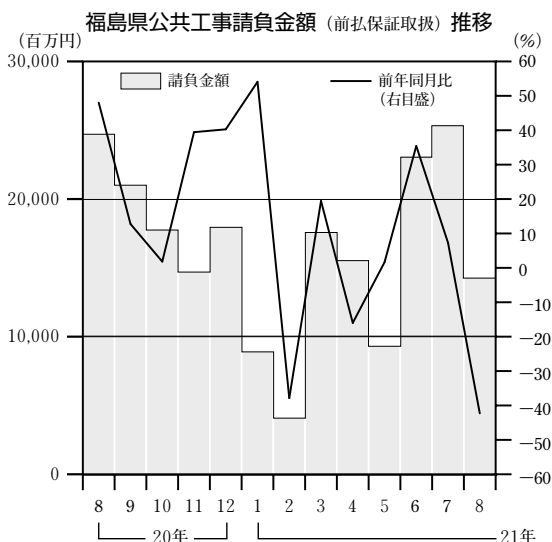
公共工事 8月の公共工事前払保証取扱は、件数が598件（前年同月比+12.6%）と6ヵ月連続で前年を上回った。請負金額は143億41百万円（同△42.0%）で4ヵ月ぶりに前年を下回った。保証金額は57億82百万円（同△33.0%）となり、3ヵ月ぶりに前年を下回った。

なお、年度累計（2009年4月～8月）では、件数が前年同期比396件増加し、2,747件（前年同期比+16.8%）、請負金額が同61億31百万円減少し、879億73百万円（同△6.5%）、保証金額が25億38百万円減少し、325億80百万円（同△7.2%）となっている。

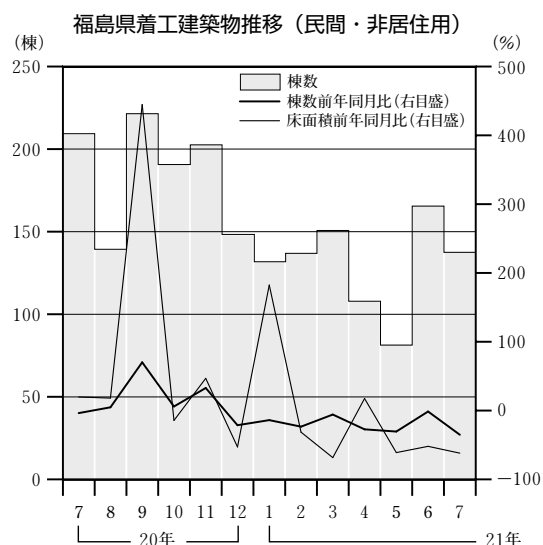
8月の主な発注者別の請負金額は、国が前年比11億83百万円減少し、23億77百万円（同△33.2%）となった。独立行政法人等（東日本高速道路㈱など）は同3億57百万円増加し、5億58百万円（同+178.5%）となった。県は同13億2百万円減少し、40億91百万円（同△24.1%）となった。市町村は同4億32百万円増加し、71億95百万円（同+6.4%）となった。



（資料：福島県商工労働部空港交流課）



（資料：東日本建設業保証㈱）



（資料：国土交通省）

設備投資 7月の建築着工（民間・非居住用）は、棟数が139棟（前年同月比△33.8%）と2ヵ月ぶりに前年を下回った。床面積は41,461㎡（同△60.5%）、工事費予定額は61億39百万円（同△45.8%）となり、それぞれ3ヵ月連続で前年を下回った。

8月の建築物確認件数（計画変更を除く）は、557件（前年同月比△42.8%）と11ヵ月連続で前年を下回った。建築物別にみると、1～3号建物（一定規模以上の建築物が対象）が111件（同△40.6%）、4号建物（小規模な木造・非木造住宅などが対象）が446件（同△43.3%）と、それぞれ11ヵ月連続で前年を下回った。「構造計算適合性判定合格件数」は14件と前月比6件増加し、2ヵ月ぶりに前月を上回った。

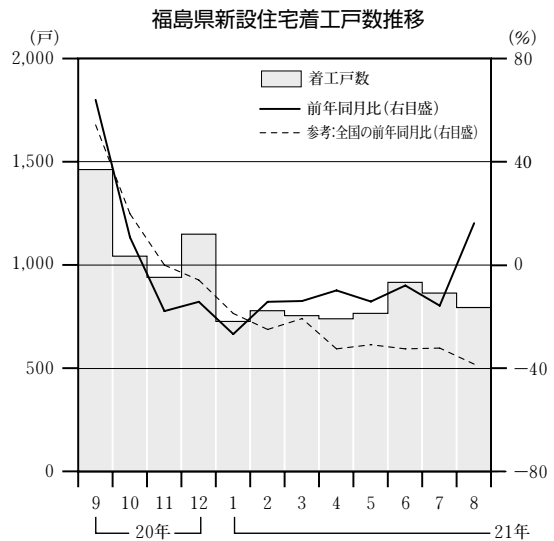
建築物着工の先行指標である8月の建築物申請件数は、655件（同△31.8%）と10ヵ月連続で前年を下回った。建築物別にみると、1～3号建物は123件（同△40.6%）と3ヵ月連続で前年を下回った。4号建物は532件（同△29.4%）と10ヵ月連続で前年を下回った。「構造計算適合性判定申請件数」は7件と、前月比10件減少し2ヵ月ぶりに前月を下回った。

住宅建設 8月の県内新設住宅着工戸数は、804戸（前年同月比+16.2%）と10ヵ月ぶりに前年を上回った。主な利用関係別にみると、「持家」は472戸（同+1.5%）と2ヵ月ぶりに前年を上回った。「貸家」は285戸（同+139.5%）と2ヵ月連続で前年を上回った。「分譲住宅」は47戸（同△56.5%）と2ヵ月連続で前年を下回った。分譲住宅のうちマンションの着工戸数は、5ヵ月連続でゼロとなっている。

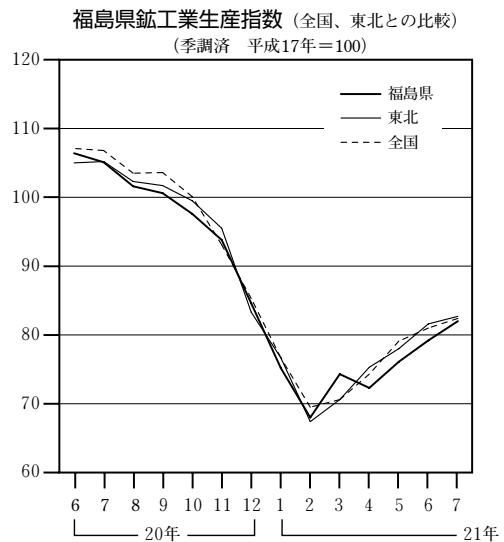
生産活動

鉱工業生産指数 7月の鉱工業生産指数は、季節調整済指数でみると82.0（前月比+3.5%）となり、3ヵ月連続で前月を上回った。一方、原指数は87.0（前年同月比△21.9%）となり、12ヵ月連続で前年を下回った。

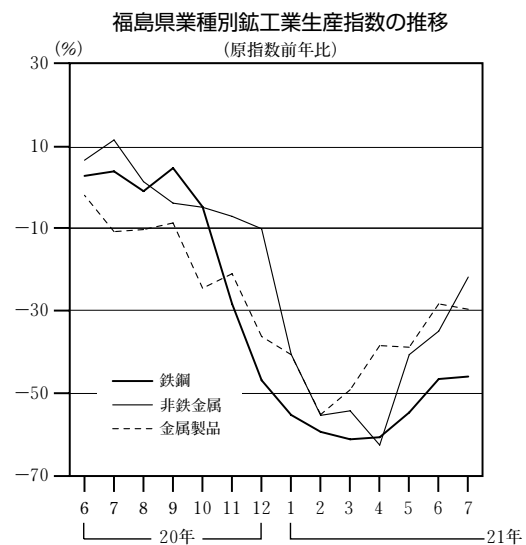
上昇および低下した主な業種別（季節調整済指数）では、情報通信機械工業で116.0（前月比+22.8%）、非鉄金属工業で84.9（同+21.8%）、繊維工業で61.6（同+19.8%）など12業種で上昇した。



(資料：国土交通省)



(資料：福島県企画調整部統計調査課)



(資料：福島県企画調整部統計調査課)

一方、パルプ・紙・紙加工品工業で83.7（同△9.7%）、一般機械工業で58.9（同△8.7%）、化学工業で84.3（同△8.2%）など8業種で低下した。

化学 8月の食品包装フィルム用合成樹脂やフッ素樹脂、医薬品は好調だったものの、金属代替プラスチック、炭素繊維などは前年を下回る水準で推移した。酸化チタン（白色顔料、自動車用塗料向け）の生産は、前年を下回る水準で推移した。バリウム化合物（電子部品原料）の生産は、前年並みの水準で推移した。

鉄鋼・金属 8月の伸銅品の生産は、自動車向け端子材、半導体向け電子材がそれぞれ前年を下回る水準で推移した。建機用鋳造品の生産は、前年を大幅に下回った。車両用鋳造品は、新幹線、JR中央線・京浜東北線の更新需要および海外需要に支えられ、安定して推移した。船舶用バルブ部品は前年を上回ったが、陸上プラント用バルブ部品は前年を下回る水準で推移した。

輸送用機械 8月の自動車用鋳造品の生産は、海外向けが低迷、前年を下回る水準で推移した。自動車用オイルシールの生産は、ハイブリッドカー向けが好調だったものの、合計では前年を下回り推移した。カーナビ・カーオーディオの生産は、持ち直しの動きが続いているものの、前年を下回り推移した。

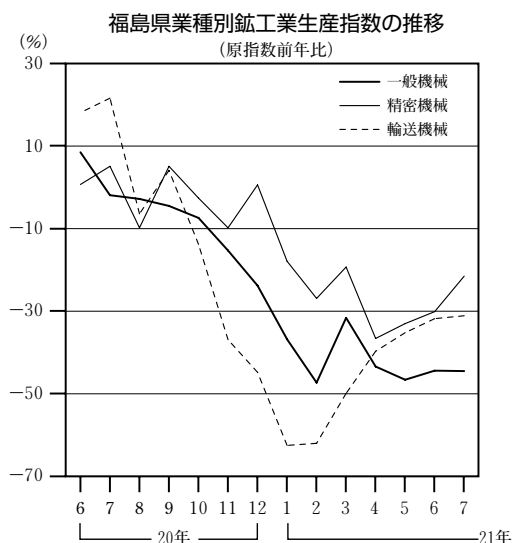
電気機械 8月の変圧器の生産は好調だったものの、配電盤、電熱炉、自動車モーターの生産は前年を下回る水準で推移した。

情報通信機械 8月の携帯電話中継局用マイクロ波通信機器の生産は、主力のインド向けが落ち込み、前年を下回る水準で推移した。衛星通信機器関連、FA関連機器の生産は、前年並みの水準で推移した。

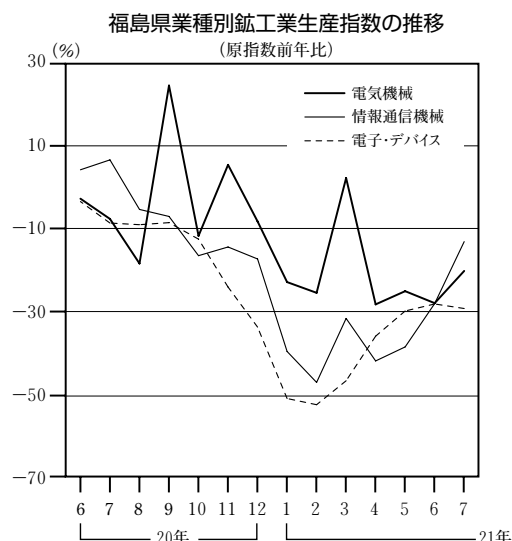
電子部品・デバイス 8月のLSI（大規模集積回路）の生産は、車載品や携帯電話で前年を上回ったが、主力のAV・ゲーム機・家電、産業機器を始め、パソコン・OA、通信向けなど、総じて低調に推移し、全体では前年を下回る水準となった。

精密機械 8月の医療用内視鏡の生産は前年を大きく下回る水準で推移した。デジタル一眼レフカメラ用レンズは、持ち直して来てはいるものの、前年を下回る水準で推移した。

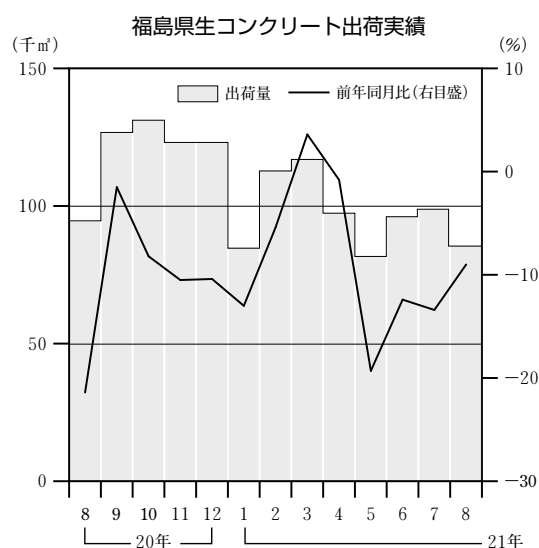
紙・紙加工品 8月の段ボールの生産は、IT製



(資料：福島県企画調整部統計調査課)



(資料：福島県企画調整部統計調査課)



(資料：福島県生コンクリート工業組合)

品向けが振るわず、前年を下回る水準で推移した。感熱紙、インクジェット紙の生産は堅調、ノーカーボン紙の生産は、ほぼ前年並みの水準で推移した。

窯業・土石 8月の生コンクリート出荷量は、全体で86,441m³（前年同月比△9.0%）と5ヵ月連続で前年を下回った。増加地区についてみると、官公需では、県中地区で国道改築工事、相双地区で海岸保全施設工事等により、民需では相双地区で高速道路建設工事、会津地区で大手メーカーによる住宅新築工事等により、それぞれ増加した。

清酒 8月の清酒移出数量は、964kl（前年同月比△7.1%）と11ヵ月連続で前年を下回った。タイプ別では、特定名称酒（吟醸酒・純米酒・本醸造酒）が354kl（同△2.3%）と5ヵ月連続で前年を下回った。一般酒（特定名称酒以外の酒）は、609kl（同△9.7%）と11ヵ月連続で前年を下回った。

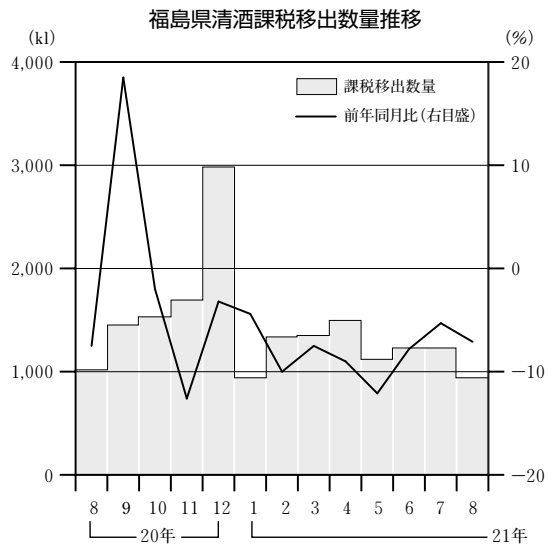
化合繊維物 8月のナイロンの生産はダウンジャケット（表地）向けを中心に、前年を下回る水準で推移した。ポリエステルも、紳士服、婦人服の裏地向けを中心に、前年を下回る水準で推移した。

ニット 8月のニットの生産は、冬物生産がピークを迎えているが、国内需要の低迷から、受注・生産は低調な水準で推移した。

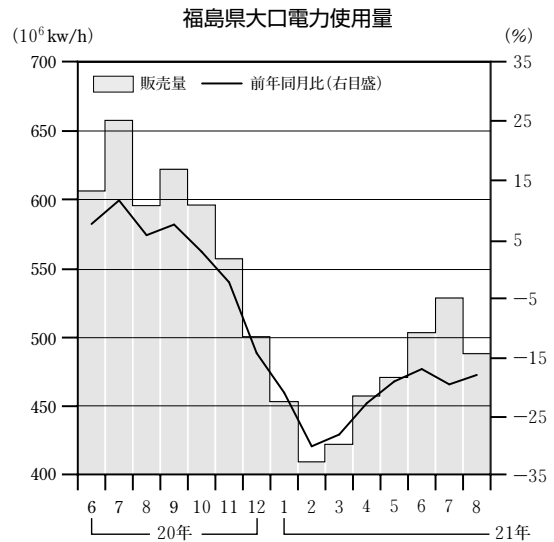
大口電力 8月の大口電力販売量は、489百万kw/h（前年同月比△18.0%）と10ヵ月連続で前年を下回った。大口主要販売先を業種別にみると、「電気機械」で120百万kw/h（前年同月比△8.8%）、「非鉄金属」で99百万kw/h（同△24.5%）、「化学」で48百万kw/h（同△12.5%）、「輸送用機械」で40百万kw/h（同△27.7%）、「一般機械」で22百万kw/h（同△27.6%）、「紙・パルプ」で13百万kw/h（同△55.9%）となり、それぞれ前年を下回った。

—— 企業倒産 ——

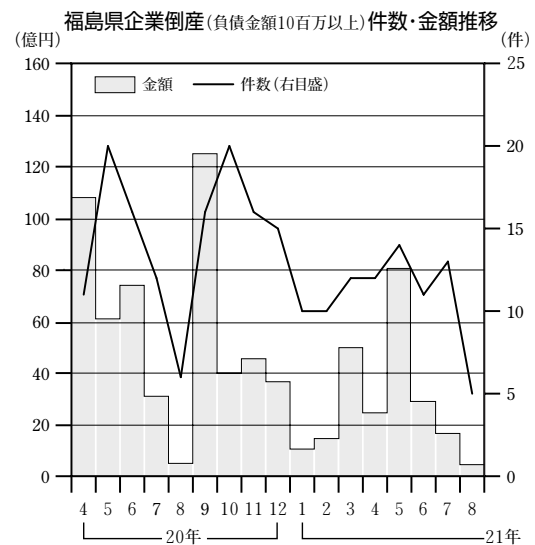
企業倒産 8月の企業倒産（負債金額10百万円以上）は、倒産件数が5件（前年同月比△16.7%）となり、2ヵ月ぶりに前年を下回った。負債総額は5億42百万円（同+12.9%）となり、3ヵ月ぶ



(資料：福島県酒造組合)



(資料：東北電力福島支店)



(資料：帝国データバンク福島支店)

りに前年を上回った。

なお、年間累計（2009年1月～8月）では、倒産件数が前年同期比21件減少し、87件（前年同期比△19.4%）、負債金額が同306億19百万円減少し、233億59百万円（同△56.7%）となっている。

8月の倒産主因別内訳は、受注・販売不振、業界不振など不況型倒産が4件、その他が1件となった。業種別内訳は、製造業が3件、建設業、不動産業が各1件となった。地区別内訳は、県北が1件、県南が4件となり、会津、浜通りでは倒産発生はなかった。

金融動向

資金需要 県内金融機関（全国銀行、第二地銀、信用金庫、信用組合の県内店舗分）の8月末の預金残高は、6兆4,517億円（前年同月比+2.0%）と30ヵ月連続で前年を上回った。また、貸出金残高は、3兆8,541億円（同+1.1%）と14ヵ月連続で前年を上回った。

保証協会 8月の保証承諾は、件数が1,062件（前年同月比+4.4%）と9ヵ月連続、保証金額が106億39百万円（同+8.9%）と11ヵ月連続で前年を上回った。一方、代位弁済は、件数が95件（同△22.1%）、金額が6億77百万円（同△27.8%）と、それぞれ2ヵ月連続で前年を下回った。

雇用動向

雇用動向 8月の新規求人数（原数値）は、7,374人（前年同月比△20.1%）と22ヵ月連続で前年を下回った。一方、新規求職申込件数（原数値）は、9,576件（同+16.4%）と12ヵ月連続で前年を上回った。

新規求人倍率（季節調整済、パート含）は、0.66倍（前月比△0.04_{ポイント}）と前月を下回った。原数値は0.77倍（前年同月比△0.35_{ポイント}）と22ヵ月連続で前年を下回った。有効求人倍率（季節調整済、パート含）は、0.33倍（前月比△0.01_{ポイント}）となり、昭和38年1月の統計開始以来過去最低を更新中である。原数値は0.33倍（前年同月比△0.33_{ポイント}）と22ヵ月連続で前年を下回った。

